

若狭地域における活断層の連動 に関する検討結果について

- 1. 地形及び地質構造の形成過程からの検討について
- 2. 応力の状況等からの検討について

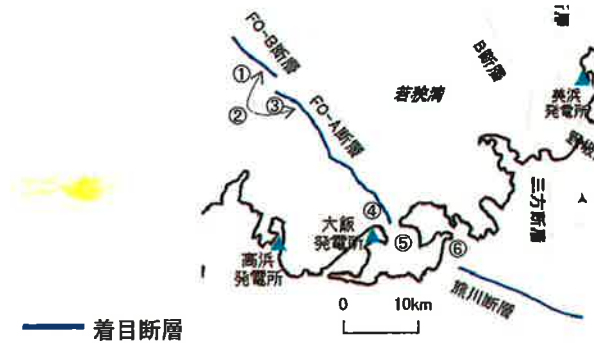
平成24年3月6日

日本原子力発電株式会社
独立行政法人 日本原子力研究開発機構
関西電力株式会社

説明内容

1. 連動性評価に関する経緯
2. 地形・地質構造の形成過程(テクトニクス)の観点からの検討
3. 応力の状況等からの検討
4. データ拡充のための調査の実施

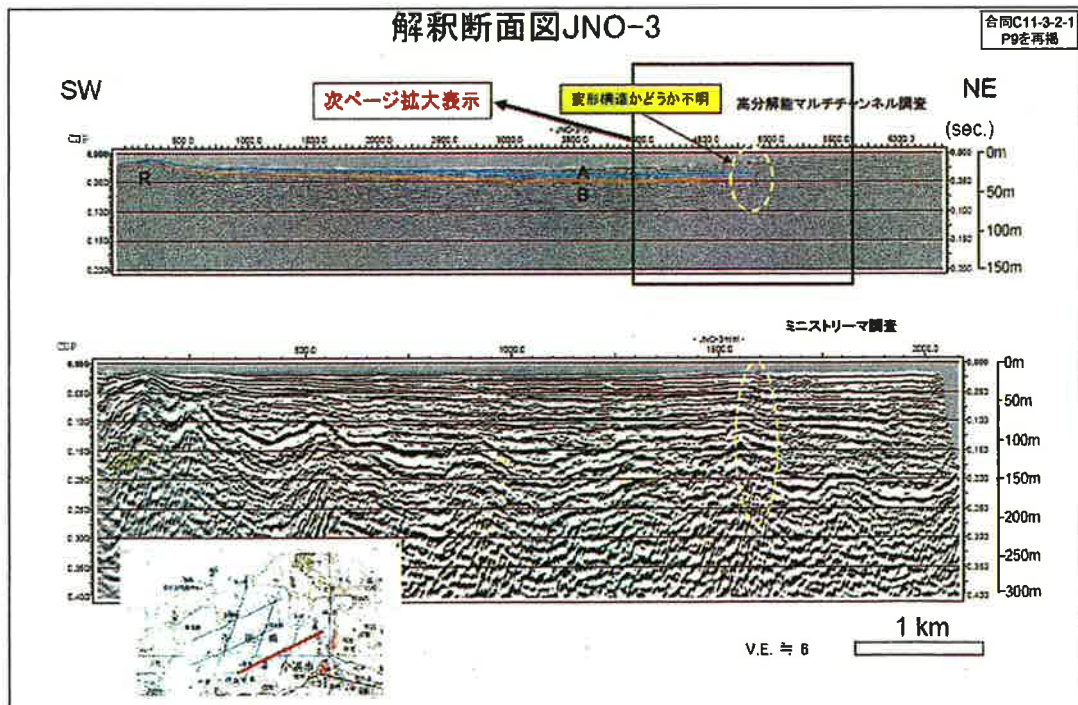
FO-A~FO-B断層と熊川断層の連動性評価



活断層	走向	傾斜	変位 センス	活動性 上段:最新活動時期 下段:活動間隔	地質状況他	5kmルール による評価	(参考)文献等での評価	連動
FO-B断層	NW	鉛直	左横ずれ	完新世 —	①【南端】海上音波探査で、後期更新世以降の活動が認められない測線を南端として評価。 ②・FO-A断層とFO-B断層は、ともに南西側が隆起する等、断層の特徴が似ている。	走向方向に5km以内の分布間隙をもって、ほぼ一線にならざるがほぼ同じ走向の複数の断層に相当するため一つの起震断層と評価される。	—	考慮
FO-A断層	NW	鉛直	左横ずれ	完新世 —	③【北端】海上音波探査で、後期更新世以降の活動が認められない測線を北端として評価。 ④【南端】海上音波探査で、後期更新世以降の活動が認められない測線を南端として評価。【小浜湾に延伸する構造は認められない】 ⑤小浜湾で実施した海上音波探査の結果、後期更新世以降の地層に両断層が連続するような構造は認められない。	5kmルールの何れにも該当しない(5kmルールでは評価できない)	産総研DB「紀伊半島Sg.(一部)」	
熊川断層	WNW	鉛直	左横ずれ	始良Tnテフラ降灰(約2.6~2.9万年前)以降、阪手テフラ降灰(約1.6万年前)以前 —	⑥【西端】反射法地震探査で、後期更新世以降の活動が認められない測線を西端として評価。【小浜湾に延伸する構造は認められない】	—	—	考慮しない

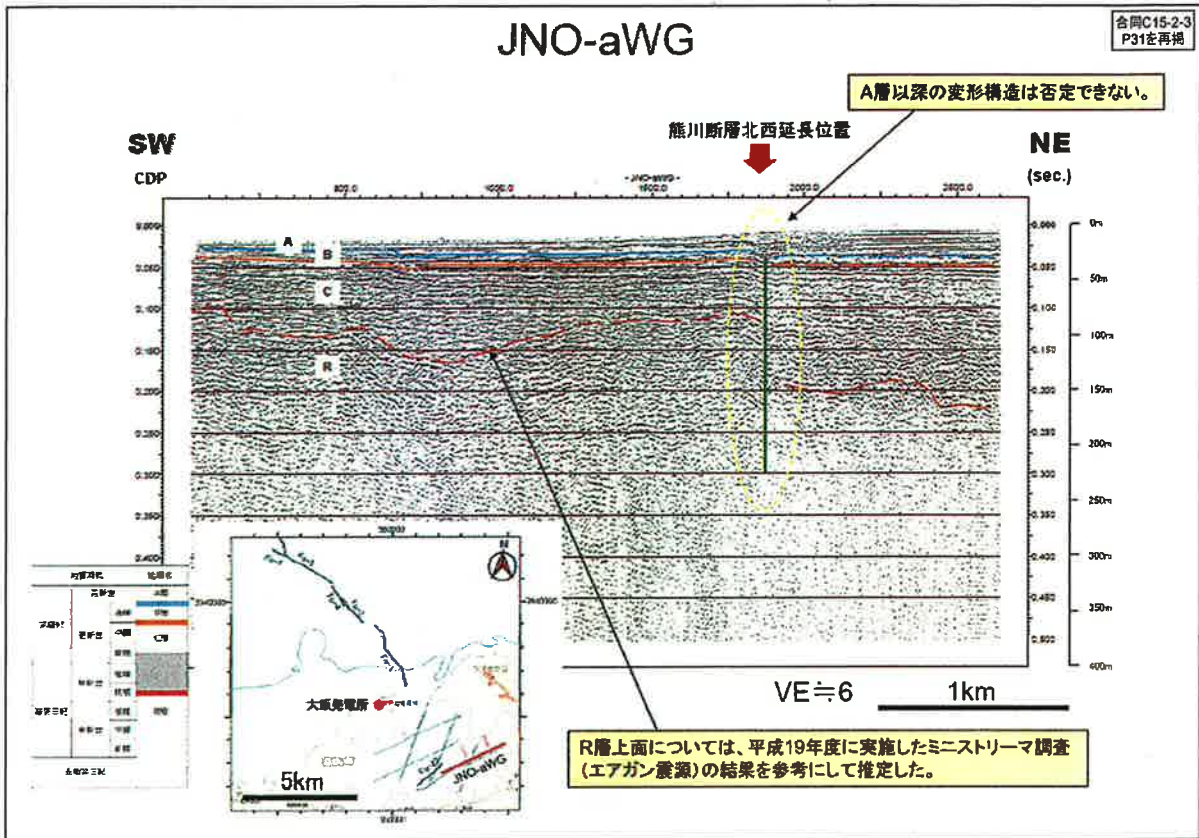
NISAによる海上音波探査(平成20年3月~5月)

(3)JNO-3

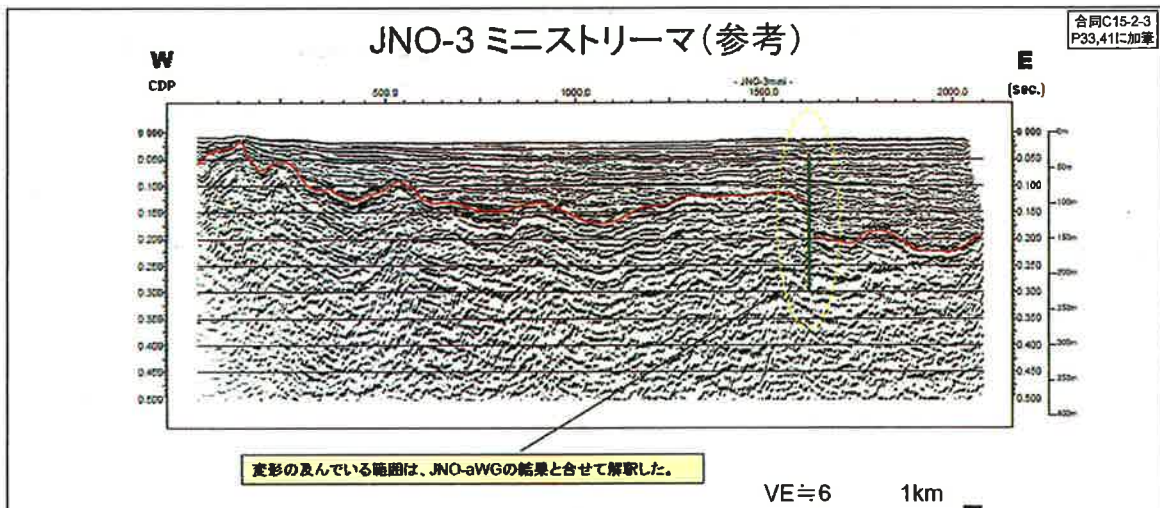


ミニストリーマによる反射面において、音響基盤上面に50mを超すような変位があると解釈されている。(具体的な解釈断面図はP.125)

NISAによる海上音波探査(平成20年8月~9月)



NISAによる海上音波探査(平成20年8月~9月)



- ・ 本調査では、海底下最大400m程度まで解釈可能な記録が得られたことにより、同範囲内の地質構造を把握することができた。
- ・ 今回の調査結果は、全体として事業者による調査結果と概ね整合的であったが、FO-B断層北西に位置するJNO-58測線の北東部及びJNO-59測線の東部のそれぞれ1箇所において後期更新世以降の地層に変形が認められた。また、小浜湾内のJNO-a測線の北東側1箇所において、後期更新世以降の活動が否定できない変形構造が認められた。